

今週（4月3日から4月7日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が340兆円台後半と高水準で推移する中、無担保コールO/Nは概ね▲0.07～▲0.02%のレンジで取引された。週初の3～5日は全体的に調達意欲が弱かったものの、6日以降は債券レポレート上昇の影響もあり、無担保コールO/N加重平均レートは週後半にかけて上昇していった。大手行・信託・証券からの調達水準の中心は、3、4日は▲0.07%、5日は▲0.06%、6日は▲0.05～▲0.04%、7日は▲0.04～▲0.03%であった。地銀からの調達水準は週を通して変わらず、▲0.04～▲0.01%であった。ターム物に関しては、1W～1M程度で▲0.03～0%の出会いが中心となった。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、6日に2W・8,000億円がオファーされ、結果は1,600億円（期落ち分3,900億円）で札割れとなった。

●レポ市場

今週のO/N GCは短国の発行が連続で行われたことでO/N・ターム物ともに資金調達のニーズが厚くなり、レートは大きく上昇基調を取るようになった。

週初3日のT/Nは先週末の地合いを継いで、引き続き投資家の資金調達ニーズが厚く、▲0.04%程度の出合い、S/Nは▲0.06%前後の出合いとなった。翌4日のS/Nは短国3M物の発行にあたるためレートが上昇し、▲0.05～▲0.04%の出合い。その後は同水準のレートでの引合いが続いたが、6日のS/Nは短国3M物と6M物の発行が重なる日となったことで、一段とレートを切り上げ、▲0.03%まで上昇した。週末7日のS/Nは短国・国債買入オペが入ったものの、資金調達ニーズは引き続き強く、▲0.04～▲0.03%程度の出合いとなった。

SCIについては足元のGCがレート堅調なことに加え、年度末が明けたことで新規にレポのオファーを行う先も増えたため、全般にレートが上昇する状況となった。個別銘柄は5y126～131、10y333～346、30y50～54などにビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、年度末担保需要の剥落、短国買入オペ動向の不透明感、新発の入札が3本連続で行われたこと、等の要因が大幅に重なり、全体的なレート水準を切り上げる展開となった。

今週は4日に3M物、5日に6M物、6日に3M物の入札が実施された。4日入札の3M物は、按分落札利回▲0.1389%、平均落札利回▲0.1612%、5日入札の6M物は、按分落札利回▲0.1435%、平均落札利回▲0.1494%と先月までのような加熱感が消え、慎重姿勢を反映した結果となった。セカンダリー市場では、3Mが▲0.165～▲0.15%、6Mが▲0.20～▲0.17%で散発的に出合った程度と、閑散なマーケットとなった。6日入札の3M物は按分落札利回▲0.1303% 平均落札利回▲0.1431%と、マーケットの慎重姿勢が継続していることを示す結果となった。セカンダリー市場は、▲0.145～▲0.135%と、一時は平均落札利回近辺でまとまった出会いが見られたものの、引けにかけては小甘い展開となった。

7日の短国買入オペは、債券レポレートが上昇していたこともあって、2兆円でオファーされた。結果は、按分落札利回較差+0.016%、平均落札利回較差+0.018%となった。3月17日以来のオファーとなったことで、応札額が6兆1,300億円となるなど、業者の在庫の積み上がりが見えた。結果については、既にレート水準が上昇していたこともあり、応札額のわりには小甘い程度にとどまった。

●CP市場

今週のCP市場は、期末に残高を落としていた先からの調達再開が行われた。商社・鉄鋼やノンバンク業態から大型の発行案件が見られ、週間償還総額3,000億円に対し、週間発行総額5,300億円と発行超のマーケットとなった。発行レートは、新年度に入り、オペ見合いによるマイナスレートは見られなくなったものの、発行残高の増加が限定的な中、投資家やディーラーの玉確保の動きが強く、引き続き0%近辺と低位横ばいで推移した。

5日にはCP等買入オペが、3,500億円（前回比▲2,500億円）でオファーされ、結果は平均落札レート▲0.006%、全取レート▲0.10%と足切レートが大幅に流れる結果となった。期初で落札レート上昇が予想される中、玉の少ないディーラーが入札を見送ったためか、予想以上に応札額が少なく、足切レートが低下したと見られる。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート（翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
4/3（月）	18,983.23	0.070	111.30	△ 0.056	△ 0.043	3,458,700
4/4（火）	18,810.25	0.060	110.49	△ 0.056	△ 0.049	3,460,900
4/5（水）	18,861.27	0.060	110.79	△ 0.052	△ 0.037	3,473,200
4/6（木）	18,597.06	0.056	110.50	△ 0.042	△ 0.031	3,456,100
4/7（金）	18,664.63	0.045	110.43	△ 0.035	△ 0.020	3,474,100

来週（4月10日から4月14日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/10 (月)	3月の景気ウォッチャー調査(内閣府) 日銀支店長会議 さくらレポート(=地域経済報告) 2月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50)				3月のFRB 労働市場情勢指数
4/11 (火)		10Y物価連動 4,000億円 4/13発行	エネルギー 対策借入 7,000億円 4/20借入		3月の英消費者物価指数
4/12 (水)	2月の機械受注統計(内閣府 8:50)	TB2M 発行中止			3月の米財政収支
4/13 (木)	3月のマネーストック(日銀 8:50) 3月の企業物価指数(日銀 8:50)	TB3M 44,000億円 4/17発行	30Y 8,000億円 4/17発行	交付税借入 10,500億円 4/21借入	3月の米生産者物価指数
4/14 (金)	2月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30) 2月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)				3月の米消費者物価指数 3月の米小売売上高 2月の米企業在庫 4月のミシガン大消費者信頼感指数速報 EURO、London祝日(Good Friday)

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給予因
4/10 (月)	1,400	▲ 34,400	▲ 33,000	全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完	▲ 3,900 ▲ 100 2,000	1,600 3,500 400	3,500	▲ 29,500	TB3M発行▲44000償還41700 TB6M発行▲29000償還5100 流動性供給▲5000
4/11 (火)	3,000	1,000	4,000	国債買入 短国買入		9,600 20,000	29,600	33,600	
4/12 (水)	2,000	▲ 10,000	▲ 8,000				0	▲ 8,000	源泉税揚げ
4/13 (木)	0	▲ 4,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	10Y物価連動発行▲4000
4/14 (金)	0	77,000	77,000				0	77,000	年金定時払い TB2M発行中止 交付税借入▲10500期日10500
週間合計	6,400	29,600	36,000	—	▲ 2,000	35,100	33,100	69,100	

4/10は日銀予想、4/11以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期の後半に差し掛かることで調達先が増加すると思われるが、週末14日に年金定時払いが行われるため、運用・調達ともに積みの進捗を意識しつつ、慎重な動きを見ることが予想される。無担保コールO/N加重平均レートは週前半は小高く推移すると予想される。

短国市場は、13日に3M物の入札が予定されている。14日の短国買入オペのオファー額にも注目したい。

CP市場は、発行残高が徐々に積みあがると見られる。14日にCP等買入オペが3,500億円オファーされる予定となっている。期初で残高の積み上がりが鈍い中、5日のオペの様なレート低下が見られるか注目される。

主要なイベントとしては、国内では12日に2月の機械受注統計、13日に3月の企業物価指数、海外では11日に3月の英消費者物価指数、14日に3月の米消費者物価指数や3月の米小売売上高などが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入